

「令和元年度世界エイズデー」の実施について

UPDATE！ 話そう、HIV／エイズのとなりで ～検査・治療・支援～
(キャンペーンテーマ)

「世界エイズデー（12月1日）」は、エイズまん延防止と患者・感染者に対する差別・偏見の解消を図ることを目的に、1988年にWHO（世界保健機関）が提唱、1996年からUNAIDS（国連合同エイズ計画）もこの活動を継承しています。国内においても12月1日を中心に、この趣旨に賛同した啓発活動が全国的に実施されます。

県内では、12月1日を中心に、各種啓発活動の他、各保健所でHIV即日検査・休日検査等を拡充して実施します。検査は予約制で、無料・匿名で受検可能です。受付時間など詳しくは、各保健所へお問合せください（参考資料 p.7 参照）。

全国的に患者増加が続いている梅毒やクラミジアについても、保健所で無料検査を実施しておりますので、HIV検査と同時に受検されることをお勧めします。

HIV・性感染症の感染予防（感染拡大防止）について

- HIVの感染は、性行為以外の日常的な接触では感染せず、性行為の際も、コンドームを正しく使用することで予防が可能です。
- 梅毒の感染も性行為によるものがほとんどであり、感染予防にはコンドームの使用が重要ですが、梅毒は感染力が強いため充分とは言えません。治療が可能ですので、検査により早期発見することが重要です。ただし、梅毒は再感染するため、自身とパートナーと一緒に検査と治療を受けることが大切です。
- 感染の不安のある方はぜひ検査を受けてください。ご不明な点があれば、お気軽に保健所にご相談ください。

《 参考資料内容 》

- 1 HIV／エイズ（AIDS）について [資料 p.1-上]
- 2 2018年 新規HIV感染者／エイズ患者報告数（上位10位の自治体） [資料 p.2-下]
厚生労働省エイズ動向委員会によると、2018年の沖縄県の人口10万人あたりの報告数は、HIV感染者は全国4位、エイズ患者は全国6位となっています。

3 2019年の県内H I V感染者／エイズ患者発生動向 [資料 p.3～6]

① H I V感染者／エイズ患者の届出状況

- ・2019年11月22日時点の新規報告数は、H I V感染者9例(52.9%)、エイズ患者8例(41.7%)、合計17例となっています。
- ・診断時に既にエイズを発症している患者の割合は、全国平均の約30%と比べて高い値を示しています。

② 男女別

- ・新規報告17例は、すべて男性です。これまでの累積報告数では、407例のうち男性384例(94.3%)、女性23例(5.7%)となっています。

③ 年代別

- ・新規報告17例の年齢は、30代と40代が5例ずつ(29.4%)と最も多く、次いで20代が4例(23.5%)、50歳以上が3例(17.6%)の順となっています。
- ・H I V感染者は20～30代が中心で全体の68.5%を占めているのに対し、エイズ患者は20代以上の幅広い年代に分布し、40代以上の割合が50.0%を占めています。

④ 推定感染経路別

- ・新規報告17例の推定感染経路は、男性同性間の性的接触が14例(82.4%)と最も多く、異性間の性的接触が1例(5.9%)、その他・不明が2例(11.8%)となっています。

⑤ 保健所実施H I V抗体検査件数

- ・沖縄県は2018年の人口10万人あたりH I V抗体検査件数が全国2位です。
- ・2019年10月末時点の各保健所で実施しているH I V抗体検査件数は1,779件で、昨年10月末時点の1,638件を上回るペースとなっています。

4 令和元年度「世界エイズデー」に伴う検査拡充および通常時における各保健所のH I V抗体検査実施日時 [資料 p.7]

世界エイズデーの前後は、通常実施している検査日程に加えて即日検査や休日検査等を拡充して実施します。H I Vと一緒に梅毒・クラミジアの同時受検も可能となっています。

5 梅毒について及び梅毒の患者届出状況 [資料 p.8・9]

- ・2018年の報告数は、1999年以降では最多となる74件(男性63件、女性11件)でした。
- ・全国、沖縄県ともに2019年も引き続き報告数が多い状況となっています。沖縄県の11月22日時点の報告数は42例で、そのうち男性が36例(85.7%)、女性が6例(14.3%)となっています。
- ・推定感染経路は42例中37例(88.1%)が性的接触によるもので、異性間の性的接触および男性同性間の性的接触がそれぞれ17例(40.5%)、詳細不明の性的接触が3例(7.1%)となっています。